

のじぎくを研究する会

- 主催 兵庫県生物学会
兵庫県高等学校教育研究会生物部会
のじぎく保存会
- とき 昭和48年11月10日 午前10時～午後3時
- ところ 日本触媒化学工業株式会社姫路工場
緑化センター

- 講演 1. 本工場の緑化のねらい
工場長 鈴木 晴一
2. のじぎく栽培のコツ
同工場緑化センター 高田 孝三
3. 私と牧野富太郎博士とのじぎく（病気の
ため中止） 川崎 正悦
4. のじぎくの今昔
のじぎく保存会副会長
県立姫路西高校教諭 家永 善文
5. 菊はもっとも進化した植物
県生物学会会長
のじぎく保存会会長
姫路学院女子短大教授 室井 緯
司会 県生物学会理事長 当津 隆

○見学 緑化センターのじぎく保存園
夜来の雨の晴れあがった、さわやかな秋の播磨路にの
じぎくを研究する会がひらかれた。
生野峠を越えて但馬から
瀬戸を渡って淡路から
山脈を縫って丹波から
都会の俗塵をはらって摂津から、ここ網干へと集まっ
てきた。200名近い盛況である。
野趣を楽しむひとびとのなごやかな雰囲気の中に会
がはじまった。

講 演

まず、鈴木工場長演壇にたつ。日本触媒化学工業株式
会社という近代企業のイメージと郷土の花のじぎくとの
とりあわせへの戸惑いは、緑化する工場の話、ユニーク
な経営理念を聞くうちに感心するばかりに変わっていつ
た。公害問題が巷にあふれる前にすでに緑化運動の推進
に会社をあげてとりくんだ自負がみなぎる講演であつ
た。森のなかの工場にしたいという壮大な構想が早く実
現することを祈ってやまない。

つぎは、ごじぶんで汗を流しながらのじぎくを育て、
ふやしてこられた高田孝三氏の講演は、素朴なうちにも
長い経験からにじみでた得がたい内容のものであった。

つづいて、家永善文氏は、のじぎくの自生の中心地に
生まれ、可憐な白い花の埋もりのなかで育った遠い昔の
物語から、時の流れとともにうつりかわってきた、のじ
ぎくの今昔を情熱をこめて講演された。

川崎正悦氏の講演……ご病気のため中止……牧野富太
郎博士とのじぎくの出合いを川崎節でお伺いしたかった
のに無念なことである。

しめくくりは、室井緯博士の菊の話、格調高い植物学
講義のうちにも、“きく”にまつわるさまざまなエピソ
ードが語られ、難しい学術的なことがらを易しく解説さ
れ、談論風発、鍊られた学者としての風格を感じる講演
であった。

見 学

緑化センターのじぎく保存園品種保存園、観賞園あわ
せて3,000㎡、30,000株、その規模の大きさとともに、
のじぎくのいちじるしい変異性に驚くばかりの見学であ
った。3年ののちには7,000㎡にするという計画に向っ
て、のじぎく保存のメッカとしての営みがつけられて
いくことであろう。また、森づくり計画も壮大である。
まさき3,500本、くろまつ3,500本、ポプラ2,500本、
きょうちくとう2,500本、やなぎ2,000本、その他10種
36,000本、観葉植物2,000鉢、マスキメロンの本格的
な栽培、季節野菜の栽培、姫路市花さぎそうの栽培、
50,000㎡には牧草、子どものためのいも畠と緑化への夢
は大きくひろがり、着実に実が結ばれていくことであろ
う。

○お土産

参会者全員にのじぎくの純粋品1鉢、郷土を県花で埋
めるための配慮をありがたくおもいながらいただいたの
であった。

(当津記)

記 事 訂 正

Vol. 6. No. 4, p. 283の「森、三木、紅谷生物研究奨
励金の中間報告」の奨励金贈呈者一覧のうち、第4回に
「一色八郎 理科教育」を追加し、調査不備であったこ
とをお詫びします。